



日本海を越えていく



地学同行～コミュニティ・スクール(CS)発足に向けて～

校長 沼崎 幸治

私の座右の銘のひとつに「師弟同行」という言葉があります。師匠(教える立場)も弟子(教えられる立場)も共に活動して汗を流し、お互いに学び合おうという意味です。

いつも、地域の皆さんには多くの活動を支えていただいておりますが、改めて10月は村民運動会や祭礼、芋掘りやタコ獲りなど、地域の皆さんと、一緒に、楽しく汗を流す機会が、いつもにも増して盛りだくさんだったと思います。「師弟同行」ならぬ、地域と学校が共に活動して、子どもを育て地域を元気にする、という意味で「地学同行」と言えるのではないのでしょうか。

村民運動会では、「村民の健康と親睦」ということで、まさに老若男女を問わず、参加した皆さんや応援してくれた皆さんと児童生徒、学校職員が爽やかな秋空の下、楽しく汗を流すことができました。

祭礼では、地域の伝統行事に参加させていただき、地域の皆さんが粟島を大事に思う姿を、子どもたちは、肌で感じたことでしょう。自分たちが地域に大切にされて育ててもらっていることへの感謝の思いや自分たちも島の伝統を受け継いでいく思いを心に刻んだことでしょう。



さて、数年前から県内外問わず各地でコミュニティ・スクール(CS)という、地域と学校が共に支え合って子どもを育てようという体制づくりがなされています。過疎化や少子化が進み、地方から都市部へ人口が流出し、地域に人が集まるにはどうすればよいかというのが地域社会の課題とされています。そして、今まで学校が抱えていたことも多様化に伴い、教職員だけではなく地域の人材、自然や産業・文化などの教育的資源をより有効に活用しながら、地域で子どもを育てる必要性が説かれています。

現在、粟島浦村では地域の皆様に学校を支えていただいておりますが、今後も引き続き地域と学校が協働して村の子どもを育てるといった共通の目的に向けて、学校運営連絡協議会の合意、教育委員会の承認を得まして、令和7年度より、粟島浦小中学校もCSとして活動します。学校と地域の関わり方が大きく変わることはありません。今まで通りご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

活動を報告し、CSの準備も進みます。 ～第2回 学校運営連絡協議会の様子～

9月18日に今年度2回目の学校運営連絡協議会を開催しました。今回は1学期の学校の取組についての評価をし、ご意見や要望を出していただきました。また、令和7年度より粟島浦小中学校もコミュニティースクール(CS)として活動していく準備段階として、教育委員会が作成した会則案の審議を行いました。

会議についての主なご意見や内容は以下の通りです。

- 評価に伴う問題点については、職員全員で話し合い、改善策を講じ、実施しているのはよい。
- 小中のいじめ対応については、先生方は日々、子どもに寄り添い、温かい関わりをしてくださっている。これからも子どもとの信頼関係をしっかりとつくってほしい。また、子どもが自分自身で悩みを抱え込まないようにフォローをお願いします。
- 粟島浦小中学校は、小中合同で取り組む活動が多く、学年を越えた繋がりがあり、人間関係が醸成される。島ならではの良さである。

文化祭の準備が着々と進んでいます！

～文化祭準備の様子～



校内を回っていると、あちらこちらから子どもたちの歌声が聴こえてきます。各教室からパートに分かれた歌声が響くとともに、体育館ではダンスや歌にと子どもたちの声が広がります。そして、一生懸命に作品づくりに取り組む姿もあります。文化祭の準備が着々と進んでいます。

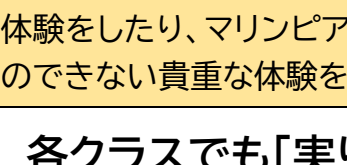
今年度の文化祭スローガン「繋げ～成長した姿を未来に 愛を粟島に～」のもと、みんなで感動の文化祭を創り上げようと全力で取り組む姿がそこにはあります。見ているだけでその一生懸命さに感動してしまいます。世界で一つしかない自分たちの力で創り上げる感動あふれる文化祭になると確信しています。子どもたちによる発表が今から本当に楽しみです。



友だちと一緒にいっぱい学んで来ました。～小学校:交流学習・修学旅行の様子～



1日目は小学校全体で交流学習・社会見学をしてきました。はじめは神納小学校での交流です。春に仲良くなったお友達と久々に再会し、嬉しそうにかかわっている姿が印象的でした。神納小学校で給食を食べた後は、胎内市坂井集落の神楽舞を見せていただき、その後1～4年生と5・6年生で分かれて体験活動を行いました。1～4年生は陶芸体験、5・6年生は桃崎浜文化財収蔵庫と藤木家の見学です。島外ならではの活動で大変勉強になりました。そしてバスに乗って宿泊場所である新潟県少年自然の家へ移動します。キャンプファイヤーやおいしい夕食など楽しいこともありますが、ここでは「考えて行動する」という思いのもと、一人一人が時間や周りの人のことを意識して生活していました。いつもはおうちの人がやってくれていることのありがたさを感じた児童もいたようで、大変有意義な1日になりました。



2日目からは 1～4年生、5・6年生で分かれての行動です。1～4年生は、樽が橋遊園で動物と触れ合った後、胎内市の特産品である米粉を使ったピザづくり体験をしました。胎内市ならではの活動を全力で楽しんだ2日目でした。

5・6年生は修学旅行へと続きます。とんぼ玉作りや陶芸など制作体験をしたり、マリンピア日本海や競馬場に行って生き物と触れ合ったりしました。普段することのできない貴重な体験をすることで、新しい自分を発見することができたようです。

各クラスでも「実りの秋」です。

～中学校:日々の学級の様子から～

実りの秋を迎え、各クラスでも様々な学習や活動をとおして、大きな実(学習の成果)が育ってきています。

1年生では、日々の関わりの中で起こった問題をクラスみんなでお話し合い、お互いが気持ちよく生活できるよう話し合う姿があります。

2年生では、海洋教育として、講師をお招きしその指導のもと、いただいた魚を自分たちで捌きました。粟島の海について知り、海の恵みのありがたさについて理解を深めました。

3年生では、総合学習で、粟島の発展に向けて新たな商品開発に取り組んでいます。今回は、粟島の特産品である「島はるか」というイモの収穫に参加し、今後の総合学習への意欲を高めました。また、放課後学習では自分の進路を見つめ、その目標に向かってみんなで受験勉強に取り組んでいます。どの学年も学習の成果という大きな実が育ち、実りの秋を迎えています。



今年も最高の親睦の時間でした

～親子わっぱ煮会の様子～

10月6日に親子わっぱ煮会を開催しました。今年は晴天のもと、栗島の美しい自然を思いっきり感じながらの活動でした。美しい海に囲まれた栗島。海の幸を追い求め、わっぱ煮に必要な魚釣りから始まりました。それと同時に用意してある魚の下ごしらえや石拾いと火の準備、ネギや味噌を加えて盛り付けと、子どもや保護者そして職員も一緒になって準備が進みます。楽しい会話の中、笑顔や笑い声が飛び交い、楽しい時間が続きます。そして、ついに栗島の伝統料理であるわっぱ煮が完成。自分たちで作り、みんなで栗島の恵みを味わう。最高においしいわっぱ煮でした。子どもたちと保護者の皆様、そして職員が集い、親睦を深めることができた時間となりました。



「健康の大切さ」を皆で確認しました。～保健図書委員会企画・クイズ大会の様子～

9月30日に保健クイズがありました。これは、保健図書委員会の保健班が企画・運営をしたものです。健康に関するクイズを○×で答えていくやり方でした。問題内容は、「睡眠についての知識」や、「秋バテ」の予防についてなど、子どもたちにとって身近で大切な問題ばかりでした。これからも日々の学習や文化祭などの行事や活動が続きます。「健康であれば何でもできる。しかし、健康でなければ何一つ満足にできない」。健康について考える貴重な時間でした。



思春期について～家庭教育講演会の様子～ 実りの秋です ～校舎の風景から～



9月30日にPTA主催の家庭教育講演会が開催されました。スクールカウンセラーの遠山修子先生を講師に、「子どもの成長を見つめて」という演題で行いました。思春期に見られる特性や心の問題を確認し、親としてどう寄り添っていけばいいのか、みんなで考えました。遠山先生の貴重なご経験も聴かせていただき、考える貴重な時間となりました。

暑かった夏も終わり、最近
は肌寒さもあり、秋も一段と
深まりつつあります。周りの
木々も少しずつ紅葉が進み、
玄関脇にある、みかんの木も今年
はたくさんの実を付け、色づいて
きました。「実りの秋」です。
子どもたちもしっかりと「実力」と
いう実を付けています。文化祭等、
これからの子どもたちの様々な
発表を楽しみに思う毎日です。



